(ハ) 裏腰布及び附菱等の裏打には紺紙を用ふ。

(ニ) 紐芯も表と共色の芯を入れる。

(ホ) 縫目及び折山を目透の所にせぬ様にする。

毛織物の場合

(イ) 裁目の卷縫

裁目のほつれぬ様に同色の糸或は目立たぬ色糸で卷縫を緩やかにして置く。(細い糸を用ふ)

(ロ) 裏腰布の絎附

裏腰布の周圍を最後に貼る時毛織物は糊がつき難いから裏腰の周圍を表腰布の折返に小針で纏り附けてもよい。

(ハ) 地薄のセル等は片返しでよいが,厚地のものは縫目を割り又普通絎ける所は纏る。

(ニ) 投

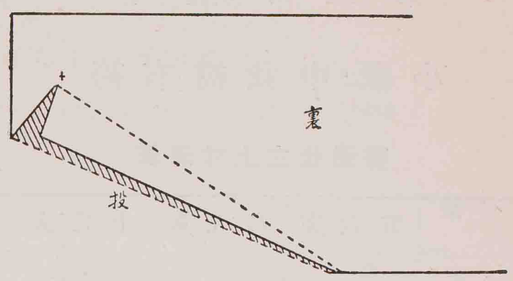
地薄の時は綿布·絹布を仕立る時の方法に同じ。地厚の場合には三つ折にして上部は裁目のまま千鳥縫にして置く。

無双平の場合

普通絹布の袴と大體同様であるが,次の點に注意する。

(イ) 投を折る際裏側は布の裏を出す様に耳を投の折目より上部にて0.4cmになる様自然に控へて折り,奥の折山を中より綴ぢ附け耳は細かく纏り附ける。

第百七十圖　投の折方



(ロ) 裏腰は布の裏を表にして仕立る。

第二十五章

小裁・中裁襠有袴

普通仕立上寸法表

單位cm

各部名稱＼年齡		五六歲	八九歲	十二三歲	十五六歲
紐下		50	57	65	76
切上		2.5	4	4	5
相引		33.5	38	44	50.5
襠の高さ		16	19	22	25
乘間		23	26	30	32
後幅		24	26	28	29
後重襞		2	2	2.5	2.5
後腰幅		20	21.5	23	23.5
腰板高さ		7	7.5	8	8.5
附菱幅		6.5	7.2	7.7	7.8
附菱高さ		4.7	5	5.2	5.5
前腰幅		24	26	28	29
脇幅		14	15	16.3	17
寄襞幅	上	2.4	2.6	2.8	2.9
	下	4.8	5.2	5.6	5.8
笹襞幅		3.5	3.8	4.1	4.3
中襞幅		7	8	8.5	9
後紐丈		55	60	65	70
前紐丈		230	250	280	300
紐幅		2.3	2.3	2.7	3

裁方，積方（十二,三歲用）

幅 38cm

附圖 第百七十一圖參照

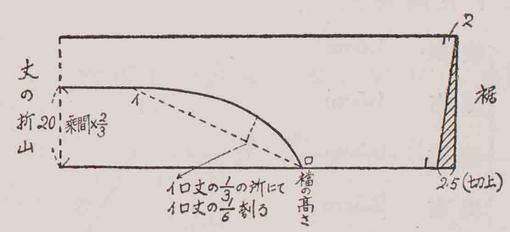
切上 4cm ｛後布 1.5cm　後襠 2.5cm
　　脇布 2cm　奥布 2cm

裁交 11cm ｛後襠 1.5×2＝3
　　脇布 2×2＝4
　　奥布 2×2＝4

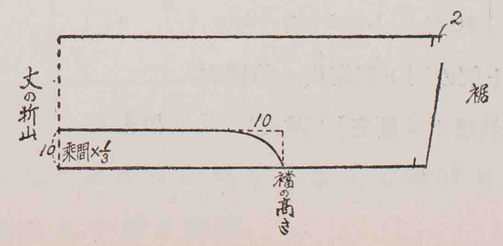
8 後布丈＋2 腰布－裁交＝總用布

標附方及び乘間の刻方

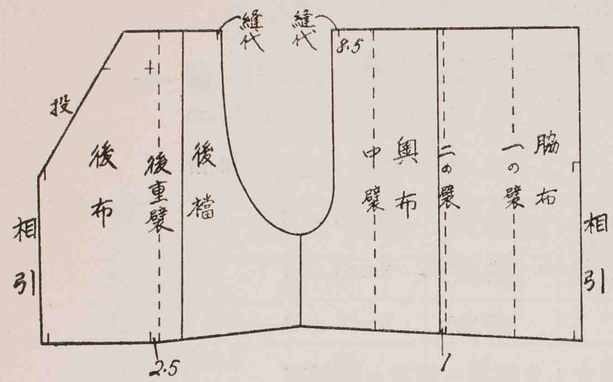
第百七十二圖 後襠



第百七十三圖 奥布



第百七十四圖　襞山の定方(左脚)



裁方，積方(九,十歳用)

幅 38cm

附圖　第百七十五圖參照

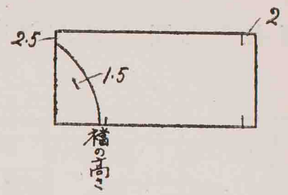
切上	4cm	後布	1.5cm
		脇布	1.5cm
		後襠	2.5cm
		奥布	2.5cm
裁交	6 cm	後襠	1.5cm
		脇布	1.5cm
		奥布	1.5cm × 2 = 3cm

襠の高さ＋上部の刳＋裾絎代＝前襠丈

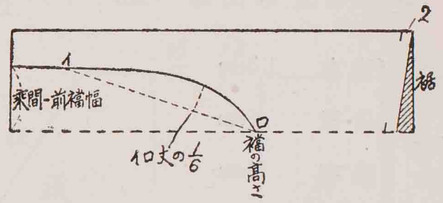
{總用布－(前襠＋2腰布)＋裁交}÷7＝後布丈

標附方及び乘間の刳方

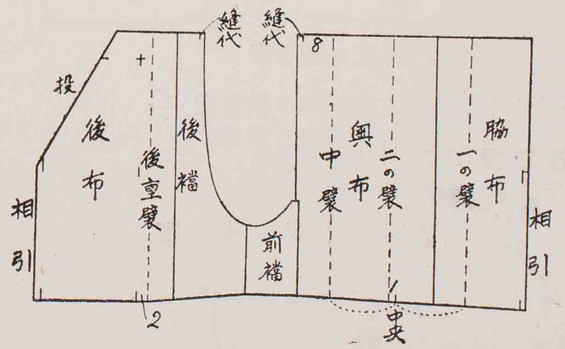
第百七十六圖　前襠



第百七十七圖　後襠



第百七十八圖　襞の定方(左脚)

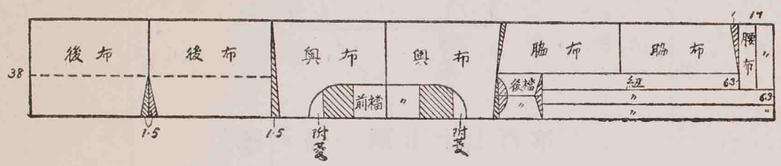


『**備考**』七,八歳用は前襠なく從つて乘間を刳る時奥布も刳る,他は九,十歳と同樣。

裁方積方

幅 38cm

第百七十九圖（五,六歲用）



裾口切上 2.5cm
- 後布　1.5cm
- 後襠　1cm
- 脇布　1cm
- 與布　1.5cm

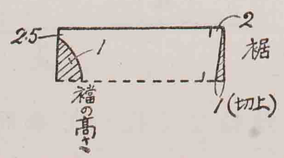
裁交 3cm
- 與布　1cm × 2 = 2cm
- 脇布　1cm

6 後布丈 + 2 腰布 − 裁交 = 總用布

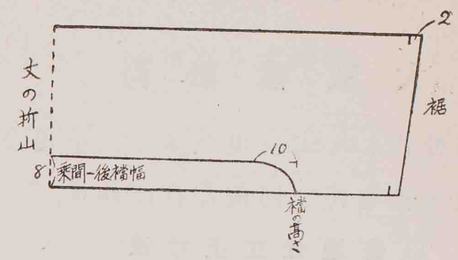
襠の高さ + 上部の刳 + 裾紵代 = 後襠丈

標附方及び乘間の刳方

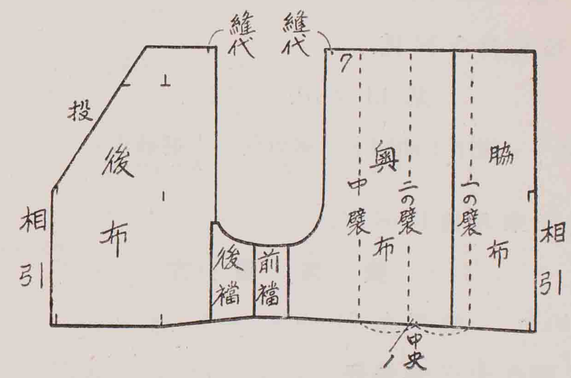
第百八十圖　後　襠



第百八十一圖（奥布）



第百八十二圖　襞山の定方(左脚)



仕立方の注意

中裁小裁男袴の縫方は大人物に準ず,但腰立の時,針數を減じて十四針となす。

即附菱の中は三針となる。

第二十六章

大裁襠無袴

襠無袴は行燈袴とも云ひ現今多く之を用ひる。各部の名稱は,普通の襠有袴と同樣なれば略す。

普通仕立上寸法

切上 { 後　2cm～3cm
　　 { 前　4cm～5cm

他は襠有袴と同樣。

裁切寸法の定方

後布丈……紐下＋前切上(4cm)＋裾絎代(2cm)＋上部縫代(8cm～10cm)

其他は乘馬袴に同じ。

裁方積方

幅　40cm　　總用布 915.4cm

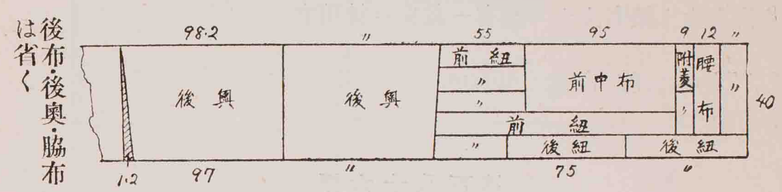
附圖第百八十三圖參照

切　上 { 後 2cm { 後布　0.8cm
　　 { 　　 { 後奥　1.2cm
　　 { 前 4cm { 脇布　2cm
　　 { 　　 { 前奥　2cm

裁交 9.6cm { 脇布　2cm × 2 ＝ 4cm
　　 { 前奥　2cm × 2 ＝ 4cm
　　 { 後奥　0.8cm × 2 ＝ 1.6cm

{總用布－(紐丈＋附菱＋2腰布)＋裁交}÷8＝後布丈

幅 40cm　　第百八十四圖



切上 { 後 2cm { 後布　0.8cm
　　 { 　　 { 後奥　1.2cm
　　 { 前 4cm { 脇布　2cm
　　 { 　　 { 前奥　2cm

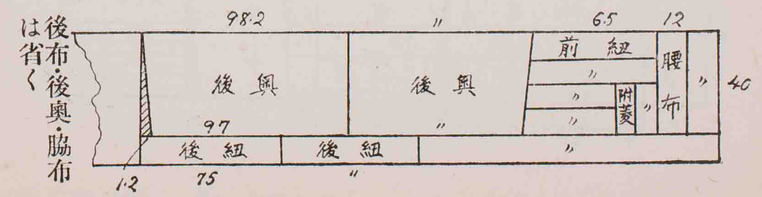
裁交1.36cm { 脇　布　2cm × 2 ＝ 4cm
　　 { 前　奥　2cm × 2 ＝ 4cm
　　 { 後　奥　0.8cm × 2 ＝ 1.6ccm
　　 { 前中布　4cm

{總用布－(紐布丈＋附菱＋2腰布)＋裁交}÷9後布丈

9後布裁切丈＋紐布丈＋附菱＋2腰布－裁交＝總用布

幅 40cm

第百八十五圖

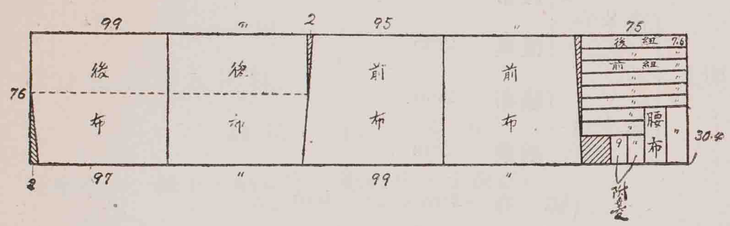


切上及び裁交は第百八十三圖の時と同樣

8後布丈＋紐布丈＋2腰布－裁交＝總用布

幅　76cm　總用布　467cm

第百八十六圖



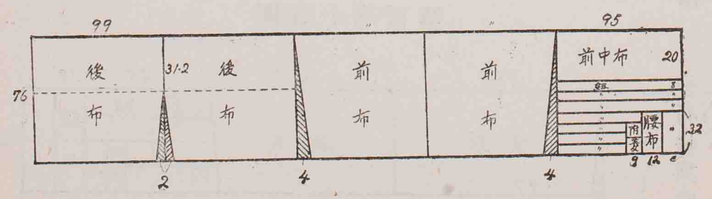
切上　後2cm　前4cm

裁交　4cm

4後布丈＋紐丈－裁交＝總用布

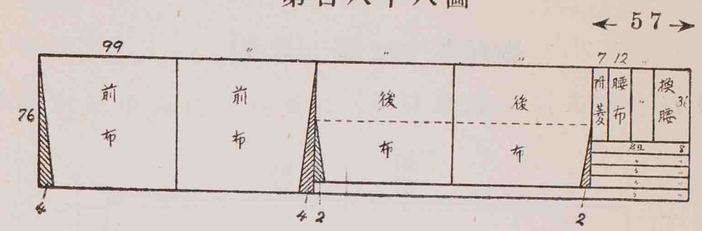
幅 76cm　總用布 491cm

第百八十七圖



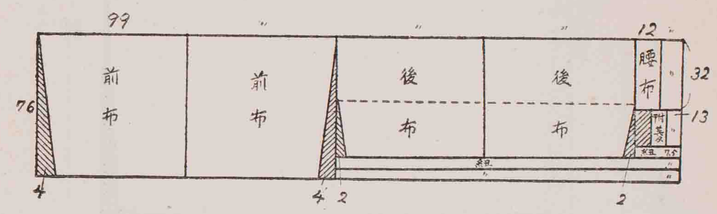
幅 76cm　總用布 453cm

第百八十八圖



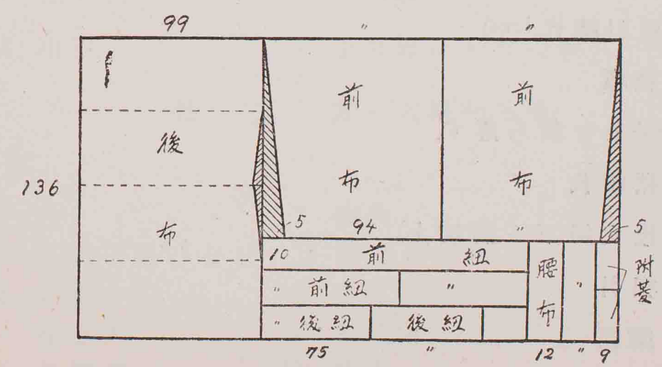
幅 76cm　總用布 420cm

第百八十九圖（用布を節約した裁方）



幅 136cm　總用布 297 cm

第百九十圖

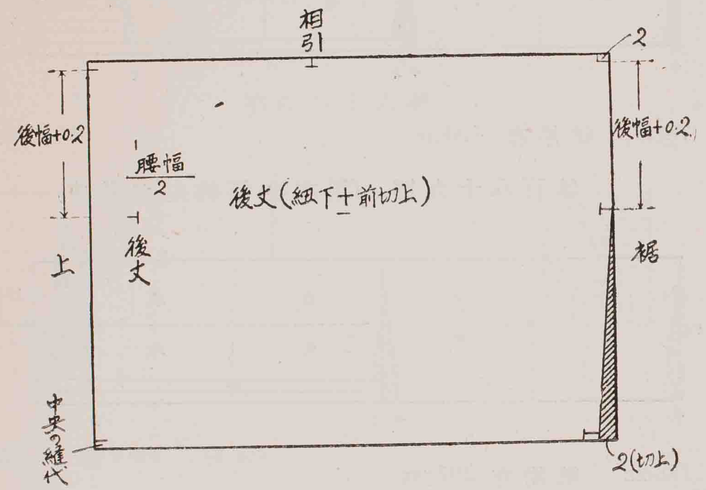


切上　後　2cm　前　5cm

標附方(大幅物)

第百九十一圖　(後布)

後布を中表に二枚重ねる。



順序

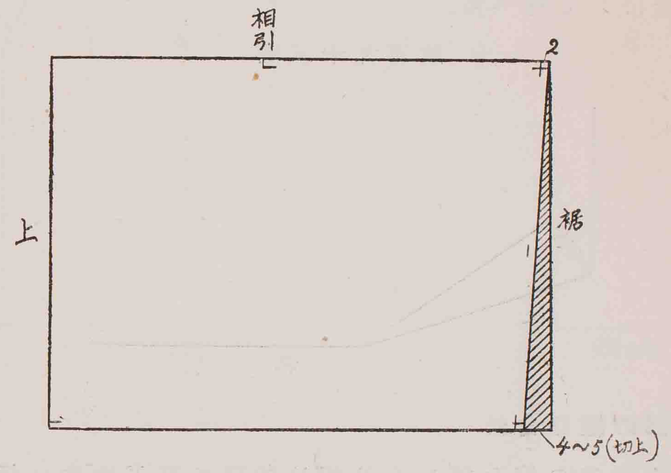
1　相引縫代(1cm)
2　後幅
3　切上を裁ち落す。
4　裾絎代
5　後丈(紐下＋前切上)
6　相引
7　腰幅
8　投

9　中央縫ひ合せの縫代

2　前布

第百九十二圖　(前布)

前布を中表に二枚重ねる。



順序

1　裾絎代2cm)
2　相引
3　相引縫代(1cm)
4　中央縫ひ合せの縫代(1cm)

仕立方　(大幅物,毛織)

順序

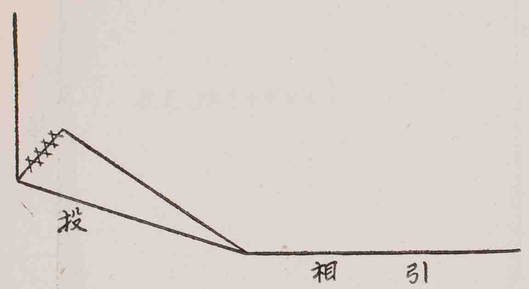
1　投
2　各布の縫ひ合せ
3　裾絎
4　後襞取
5　前襞取
6　相引
7　笹襞
8　前後の紐絎
9　後腰立
10　前紐附
11　仕上

方法

1　**投**

地薄の時は綿布及び絹布を仕立てる時の方法に同じ。地厚の場合には,圖の様に三つ折にして,上部は裁目の儘千鳥縫にして押へる。

第百九十三圖



2　**各部の縫ひ合せ**

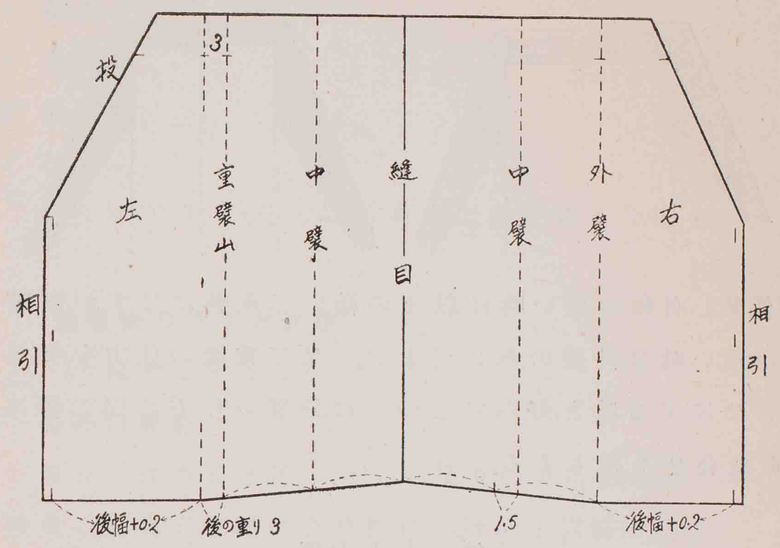
左右前後の懷を縫ひ合せ,折は背縫と同じ方向に返す.

3　**裾衍**

三つ折にして纏るか,又は小針に衍ける。但前後とも相引より 5cm の間は衍け殘し置く。

4　**後襞取**

第百九十四圖　**後襞山の定方(二重襞)**

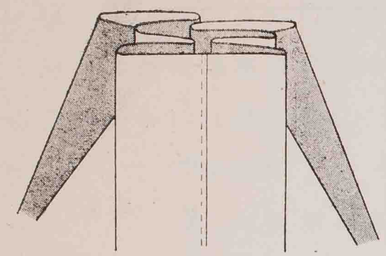


(イ)　上圖の通り襞山の折を附ける。

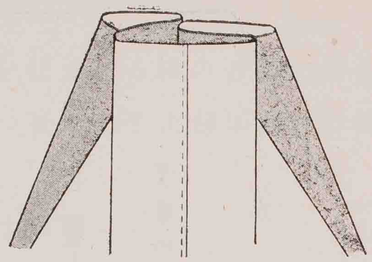
(ロ)　左右共中襞の折山を懷の縫目に突き合はせる.

(ハ)　重襞山を懷の縫目より 3cm 出し其の上に右外襞の折山を 3cm 重ね(即後の中央と重なる)躾を掛ける.

第百九十五圖

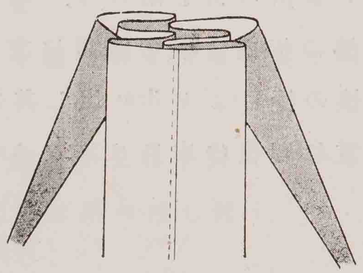


第百九十六圖



『備考』布幅の廣い時は,以上の様に二重襞になすが,布幅の狹い時は外襞のみにてよい。又二重襞の仕方を突き合せにする時と,好みによつては,外襞の仕方と同じ様に重ね合せる事もある。

第百九十七圖



5 **前襞取**

前襞山の定方及び取方は大裁女袴と同様。

6 **相引**

相引及び裾の始末をする。

7 **笹襞**

8 **前後の紐衛**

9 **後腰立**

10 **前紐附**

11 **仕上**

7, 8, 9, 10, 11 の仕方は八布半遣襠有袴と同様。

並幅物の仕立方注意

(大幅物と異なる點)

各布の縫合

後布と後奥とを縫ひ合せて後奥の方に折を附け,次に後奥と後奥とを縫ひ合せ折は背縫ひと同様に返す。

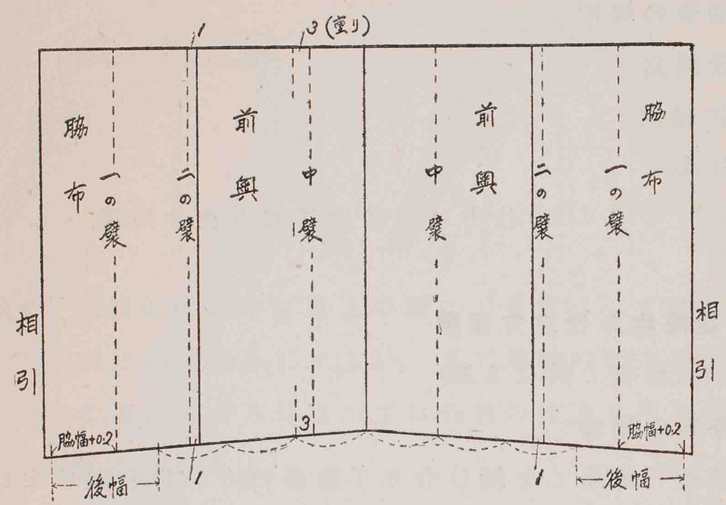
前は脇布と前奥とを縫ひ合せ前奥の方に折り,次に前奥と前奥とを,縫ひ合せて折りは脊縫と同じ方向に返す。(尙中布のある時は折は左右共中布の方に返す。)

襞山の定方

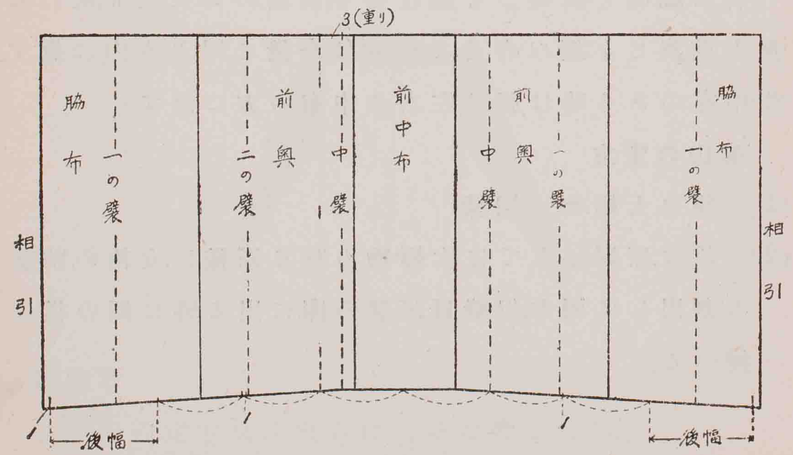
(1) 後は大幅物と同様

(2) 前は,原則としては,大幅物の時と同様に,女袴の前襞の割出しに同じ,但縫目が襞の間に出る時は圖の様に變へる。

第百九十八圖　**前襞山の定方**



第百九十九圖　**前襞山の定方**(中布のある場合)



他の仕立方は地質が異るのみにて大幅物に同じ。

第二十七章

大裁襠有袷袴

各部の名稱　單袴と同樣.

地　質

表地

單袴の材料中にて良品を用ふ.

裏地

甲斐絹又は羽二重等滑り良き品を選ぶ.

色

茶,鼠等.

仕立方の種類

四つ縫

別　縫

表裏が同幅の塲合は四つ縫になし,幅の異る時と地厚の場合とは別縫になす.

裁方の注意

表

單袴と同樣. 但裏腰布は裏地を用ひる. 故に腰布は一枚でよい.

裏

1　表裏同幅の時

裾口で表丈を1cm表に折り返す故,裏丈は表丈より2cm短くなし紐布及び附菱は不要。

2　表裏幅不同の時

表布幅より裏布幅が狹い時に,各一枚宛接を入れず順次に之を繰越して,後は後襠にて,前は奥布にて補ふ。他は同幅の場合に同じ。

裁　方　積　方

表幅 40cm　總用布 932cm

表の裁方は八布半遺襠有袴と同様になす。但表後丈99cm

裏幅 36cm　總用布 948.8cm

附圖第二百圖參照

切上 { 後 6cm { 後布 0.6cm　後襠 4.2cm　後襠足布 1.2cm
　　 前 6cm { 脇布 2.5cm　奥布 2.5cm　奥布足布 1cm

裁交11.2cm { 後　襠　0.6cm × 2＝1.2cm
　　脇　布　2.5cm × 2＝ 5cm
　　奥　布　2.5cm × 2＝ 5cm
　　奥布足布　5cm × 2＝10cm

表後布丈－2折返＝裏後布丈

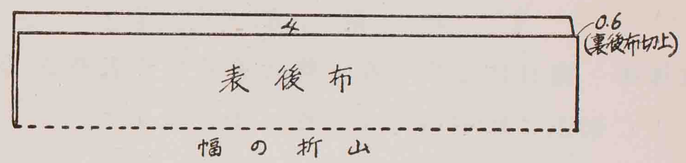
10後布丈－裁交＝裏總用布

『**備考**』第二百圖の如く足布幅に接代を加へないのは,表布は多く耳幅廣く,裏布は大概耳幅狹し,其の爲縫代で加減をする。若し裏布の耳幅廣くして加減の出來ないものは,足布幅に縫代の二倍を加へる。

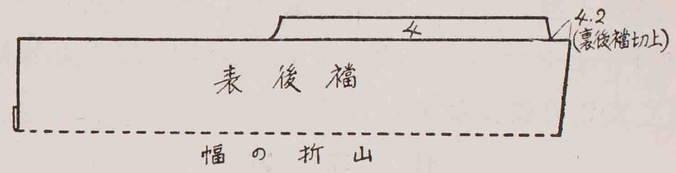
裏布の切上見方

表布を裏布幅の不足分迄折返す。

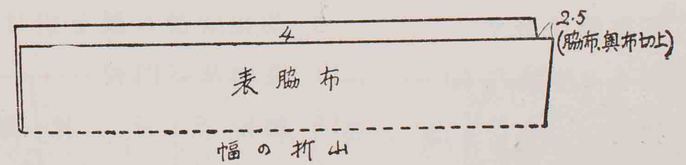
第二百一圖



第二百二圖

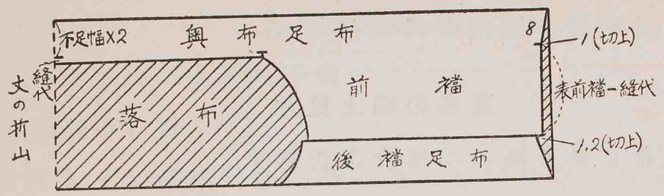


第二百三圖



奥布は脇布と同様。

第二百四圖　**足布の裁方**(中表に丈二つ折)



前後檔の刳り方は表布の刳に合せて裁つ。

標附方

1 **表後布**　裾口にて 2cm 取り(縫代 0.8cm + 着代 0. cm + 表折返 1cm)それより上に切上と紐下の寸法を度り丈を定める。

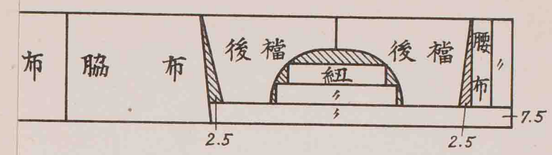
他は單袴と同様。

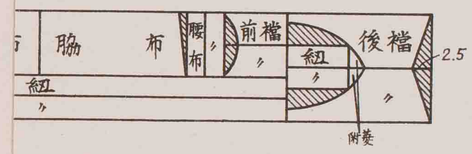
2 **裏後布**　表の標附順序による。但裾口縫代を 1cm 取り。(縫代 0.8cm + 被代 0.2cm)それよる上に表丈より 1cm 減じて(表の折返の分)丈を定める。相引も表より 1cm 短くし,腰幅投等總て表と同様になす。

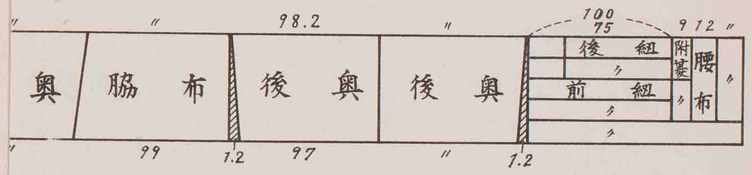
仕立方

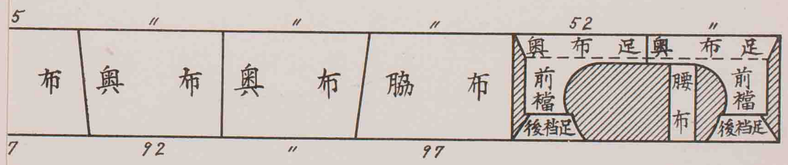
順序

1 表布縫ひ合せ	8 乘間縫
2 裏布縫ひ合せ	9 前後寄襞に躾を掛ける
3 裾合せ(前後左右)	10 笹襞及び門留
4 投	11 紐絎
5 襞取り	12 腰立
6 相引及び笹襞縫	13 前紐附
7 前後の襠合せ	14 仕上



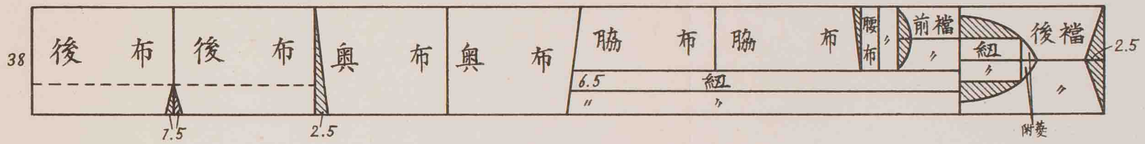




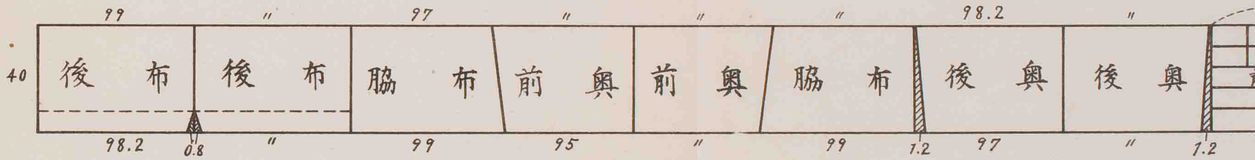


第百七十一圖

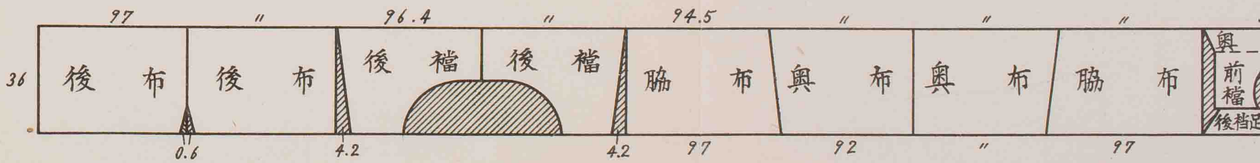
第百七十五圖



第百八十三圖

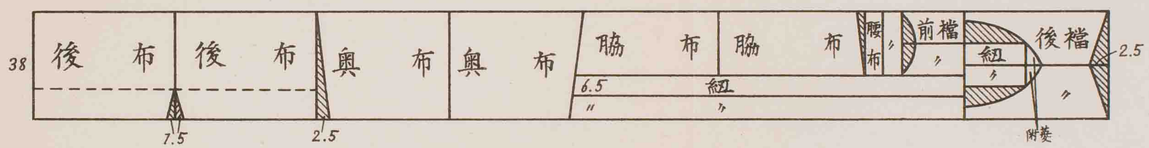


第二百圖

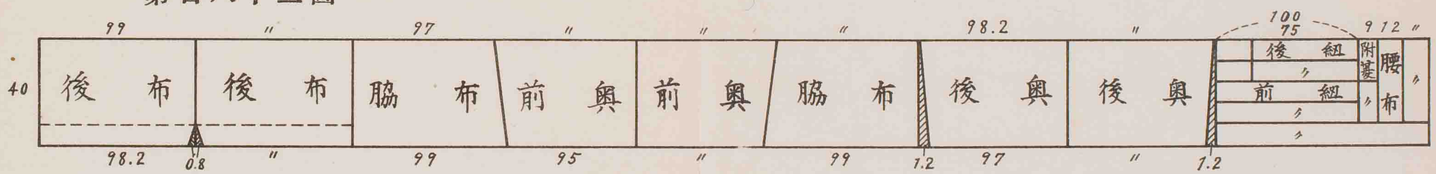


第百七十一圖

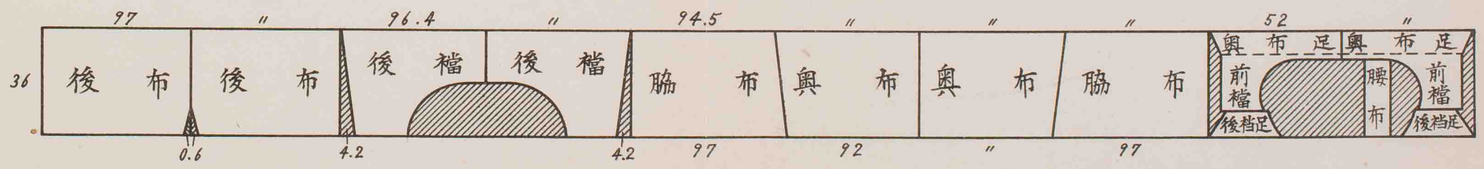
第百七十五圖



第百八十三圖



第二百圖



方法

1　表布の縫ひ合せ

單袴と同様。(但前後の襠合及び投絎をせず)

2　裏布の縫ひ合せ

(イ)　後布と後襠とを,後襠と後足布とを縫ひ合せ,折は奥の方に返す。

(ロ)　脇布と奥布とを又奥布と前の足布とを縫ひ合せ,折は奥の方へ返す。

裾合せ

(イ)　後布の裾口を 0.8cm の縫代にして表裏を縫ひ合せ,其の時相引の方を良く揃へて,裏裾の縫目になる處に 2cm 幅の生半紙を當てゝ縫ひ,後幅標の處は單袴の様に淺く襞を取る)　折は裏の方に返して表返し,表を裏に 1cm 折り返し裏の方から一束に躾を掛け置く。

(ロ)　前裾口を縫ひ合せることは,總て後の仕方と同様。次に表裏を平に置き,襠の刳幅等を調べ不揃の時は表裏を裁ち揃へる。

4　投

表は標より 0.2cm 淺い處と,裏は 0.2cm 深い處とを合せ,裏側には 2cm 幅の紙を當てゝ 0.1cm の着せだけ淺く縫ひて表返し,表を裏に 0.2cm ふかせて裏から躾を掛ける。

5　襞　取　り

表裏布のずれぬ様に布の端及び襞山に近い處を躾で

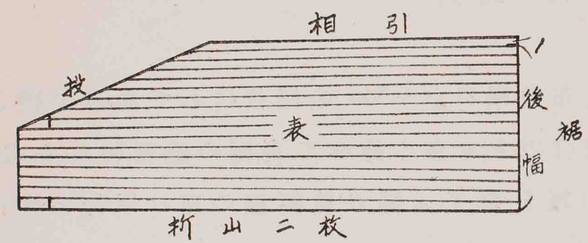
押へて置く。

(イ) 後　襞

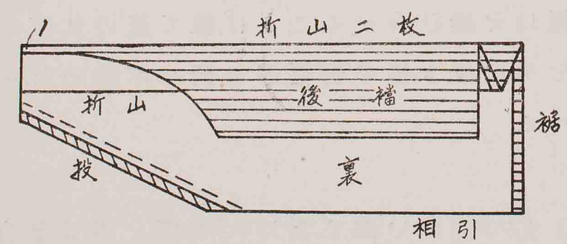
右は後幅の標通りに折を付け,次に乘間の縫代の縞を通して下まで折り,折山を後襞山と揃へて折り重,ね正しく壓を置く。

第二百五圖　右　後

(其　一)



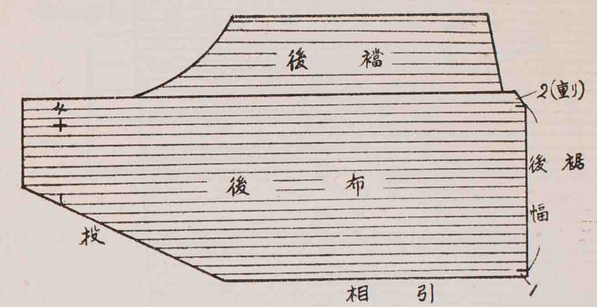
第二百五圖　(其　二)



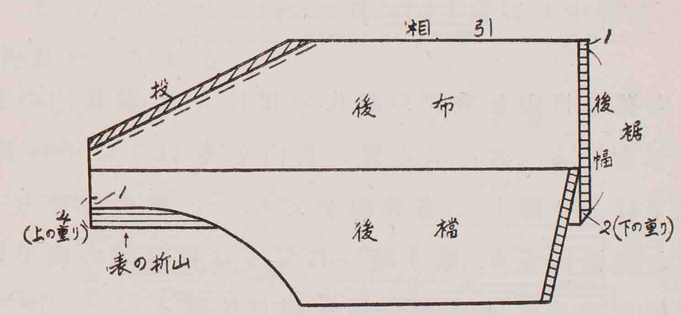
左は後幅標から重りの分として上は 4cm 下は 2cm だけ後襠の方に寄つた所に,折を附ける。次に乘間の縫代 1cm と,後幅標の處とを合せて圖の如く折り,正しく壓を置く。

第二百六圖　左　後(表)

(其　一)



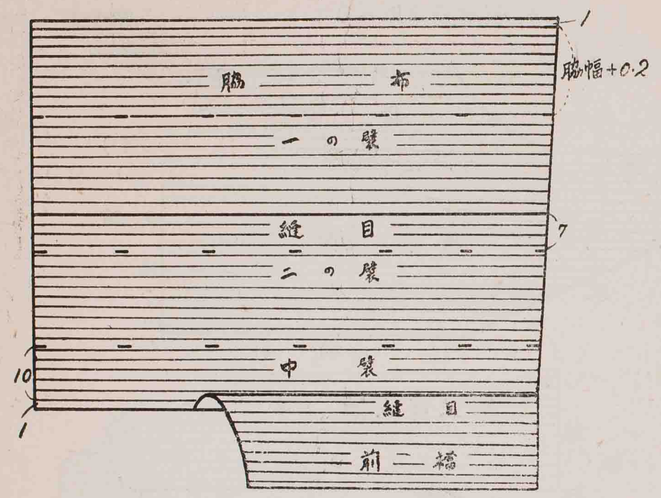
第二百六圖　(其　二)



(ロ) 前　襞

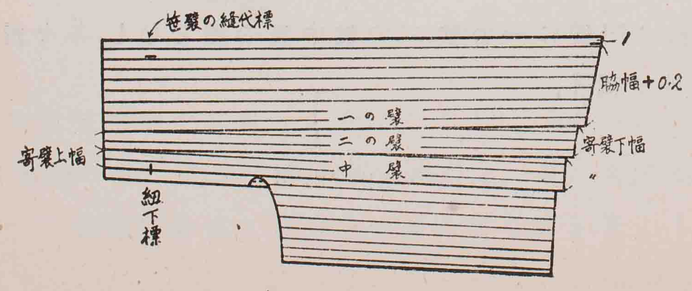
單袴と同樣に一の襞,二の襞,中襞の標をなし,各々折を附けて置く。

第二百七圖　襞山の定方(左前)

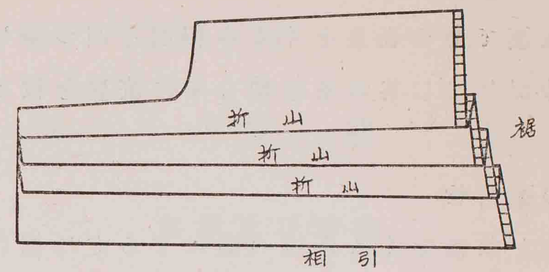


左は中襞の折山を乘間の縫代の標に合せ,(前襠附の折山と突き合せる) 次に二の襞の折山を,襞口では 6cm 紐下の所では 3cm 離して,寄襞幅を定め,一の襞の寄せ方も,二の襞と同樣にする.,取り終つたならば,前紐附の所で笹襞の縫代を定めて,表裏共に標を附けて置く。

第二百八圖　(其一)



(其二)

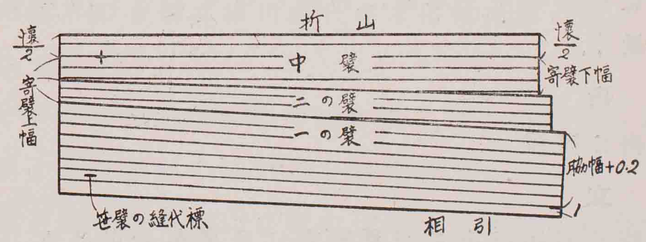


右は左前布の樣に一の襞二の襞の襞山の折を付け,中襞は其の寸法の二分の一の所を折る,(此時乘間の縫代 1cm の處より度る)

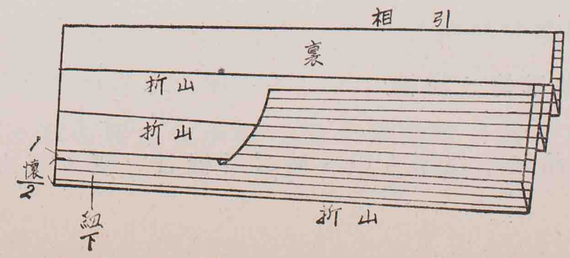
次に左前の如く寄襞を取り(二の襞は中襞標より度る)笹襞標を附ける。

第二百九圖　右前(裏)

(其一)



(其二)



6　相引及び笹襞

前の表裏で,後の表裏をくるみ,相引を四つ縫になし,相引止で抄留をなし,其の糸を切らずに笹襞を投と同方法で縫ふ。

7　前後の襠合せ

右後襠を前襠でくるみ,四つ縫にする左は裾口から中央迄四つ縫にして,それから上は,表裏別々に縫ふ。

8　乘間縫

乘間を,左脚で右脚をくるみ,縫目を良く合せて四つ縫になす.

9　前後寄襞に躾を掛ける

前後の寄襞を整へて躾を掛ける。

10　笹襞及び閂留

笹襞の形を作り,單袴と同樣に始末をして閂留をなし壓を置く。

11　紐　衒

單袴と同樣。

12　腰　立

單袴と同樣であるが,裏腰布には裏布を用ひる。

13　前紐附

14　仕　上

13, 14 は單袴と同樣。

『備考』良品にて地厚ものゝ時は各縫目を割る事もある。

コ　ー　ト

第二十八章　總　論

起源及び沿革

我が國には古くは防雨,埃除けの目的で特に作られた衣服は無く,雨具として蓑笠が用ひられて居つた。戰國時代(十六世紀末)になつて合羽と云ふものが作られた,此の名はイスパニヤ語の Capa で,當時來朝したイスパニヤ人ポルトガル人等の着用して居つた圓形マントを模して作つたものである。初は桐油紙製であつたが後には表に紺木綿,裏には茶木綿を用ひ,間に厚紙を入れたものも出來た,此圓形の合羽は德川時代の末には次第に用ひられなくなつた。

寛文年間(西紀1665年頃)に袖を附けたものが作られ,是を合羽と呼び,前記の圓形のを坊主合羽と呼ぶやうになつた,袖を附けた合羽には身丈に長短があつて,長合羽,半合羽と呼ばれた,用布は黑·紺·淺黃·御納戸·鐵·革色·澁染等の木綿が多く用ひられ,上等の品には吳羅·羅紗·紬等,夏には葛布·芭蕉布が用ひられた。

合羽の形の特色は小襟の附く事,竪衿を前で左右重ね合せ裝束(左右を止める飾紐で厚板の座が附いて居る)を

附ける事である,此袖附の合羽も明治初年には悉く廢れ,洋風インバネスが防寒防雨用として用ひられるやうになつて今日に及んで居るのである。尙商人の間にはオーバー又は角袖外套とて和服形に洋風の衿を附けたものもある。

女合羽は寶歷頃(西紀1755年頃)から武家の婦人に着られたもので一般には浴衣を防雨に着て居つた,德川時代の末になつては浴衣を用ひるものはなくなり一般に女合羽が用ひられるやうになつた,形は長襦袢の如く衽が無く衿が裾まで附いて居つた,又男子の袖附合羽と同じ形のものも多少着られた,是等の用布は紺·淺黃等の木綿であつた,後ち明治二十三年に防雨防寒用として吾妻コートと名附けられ洋服生地の毛織を以て作られたものが賣り出された,從來の合羽の襟は黑の羅紗,紋羽,天鵞絨等であつたが是は共布の小襟で裝束も座を取り去り,結紐のみを附けた,コートの名は英語のCoatから取つたものである,明治四十年頃には半コートも出來,埃除けとして夏も用ひる者があつた,又當時衿に德川時代から用ひられて居つた男子の道行の角衿を取り入れたものが作られ道行仕立コートと呼んで大正年間まで專ら流行した,大正の末からは男子の角袖外套の衿を取つた絲瓜衿が流行し,昭和十年頃からは洋服の婦人外套の衿の型を取り入れ,種々の變つた衿型が作り出されて來たのである,用布は長コートには主として洋服生地の毛織が用ひられ,袷半コートには和服生地が用ひられて居る,要するにコート類は洋風の影響を受けて起つたのである。

種　類

身丈

半コート　七分コート　長コート

仕立方

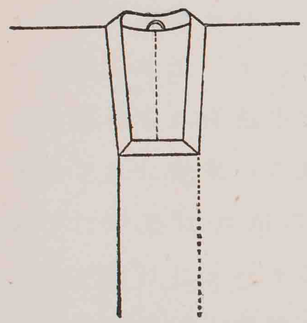
單　袷

衿の種類

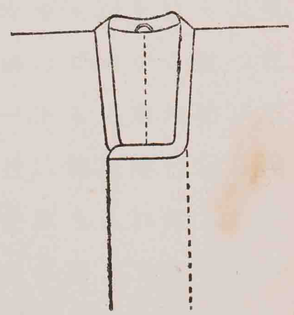
立　衿

第二百十圖　道行衿

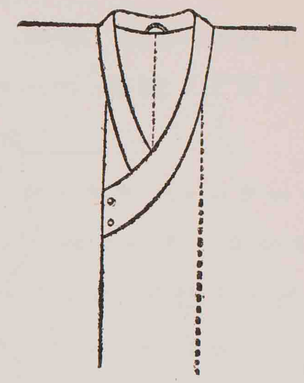
（其一）　角衿



（其二）　丸衿



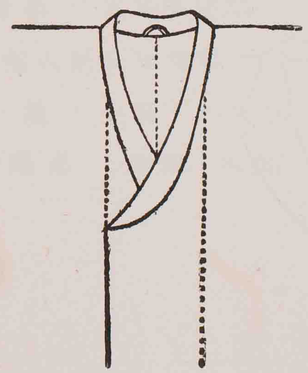
第二百十一圖　千代田衿



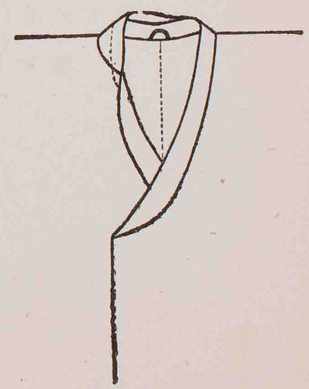
折　衿

第二百十二圖　絲瓜衿

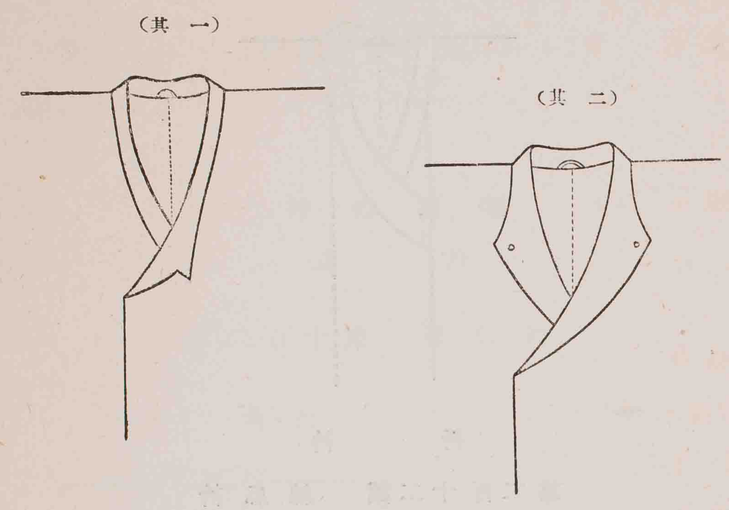
（其一）



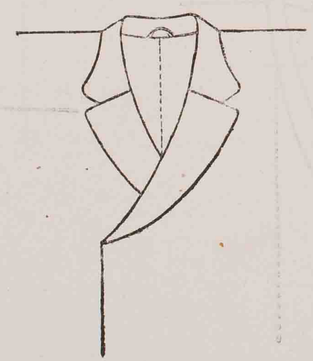
（其二）



第二百十三圖　絲瓜衿變形



第二百十四圖　オーバー(Over)衿



地質及び附屬品

表地

絹織物　錦紗. 御召. 紬類. 縮緬類. 羽二重. 繻子地. モール. 綴織. ゴブラン織. 絽. 紗. 變り織等.

毛織物　セル. シャルマント. ウールポプリン. メルトン. ベローア. カシミヤ. アルパカ. クレバネット. 其他オーバー地等.

綿織物　綿セル. 紡績. 紺絣等.

其他人絹及び交織物等.

裏地

絹織物　羽二重. 紋バレス. クレープサテイン. 甲斐絹 八つ橋等.

綿織物　瓦斯甲斐絹,

其他人絹交織物等.

芯地　半麻. スレキ. 天竺. 新モス等.

附屬品　飾釦, 木釦. スナップ等.

羽織を基とするコート寸法の定め方

單位 cm

種類 / 各部名稱	半コート	七分コート	長コート
袖丈	0.5 增	〃	
袖口	同寸	〃	
袖附	0.5 增	〃	
袖幅	0.4 增	〃	
丸味	同寸	〃	
身丈	肩山より長着の裾迄採寸 20 減	13～15 減	採寸と同寸
繰越	0.4 增	〃	
衿肩明	同寸～0.4 增	〃	
衿肩丸味	3	〃	
衩	0.2～0.4 增	〃	
身八つ口	同寸	〃	
前下	2～3	なし	前上 15～2
後幅	上 5 增 下 0.5～2增	〃	
抱幅	18～19	〃	
前幅	20～21	〃	21～22
竪衿幅	15	〃	
胸明	23	〃	
小衿	道行衿	絲瓜衿	千代田衿
小衿幅	1.8～2	後 3～4	後 3～3.5 前 7～8
竪衿下	胸明＋小衿幅	6～8	15
ポケット口下	肩山より 36～38	小衿先止り＋2～4	
ポケット口明	15	〃	

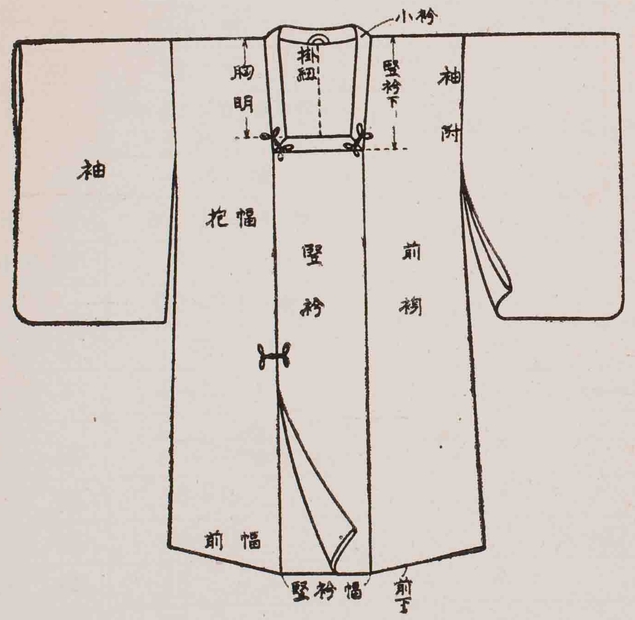
『備考』

身丈を羽織丈より定むる場合は,半コートは 6cm 乃至 8cm 長く,七分コートは 10cm 乃至 12cm 長くす.

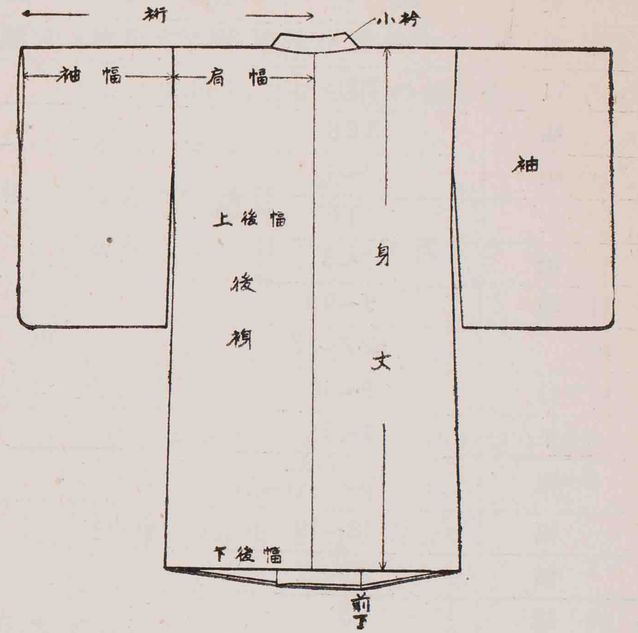
第二十九章　袷半コート

各部の名稱

第二百十五圖　前



第二百十六圖　後



仕立上寸法表

單位 cm

各部名稱	寸法 若年	寸法 中年	寸法 老年
袖丈	70.5	60.5	53.5
袖附	19.5	24.5	27.5
袖口	23		
袖幅	32.8		
丸味	2～3		
身丈	110　内外		
繰越	2～3		
衿肩明	9～9.5		
裄	62.7～63		
身八つ口	9～10		
前下	2～3		
後幅	上 28.5 下 28.5～30		
抱幅	18～19		
前幅	20～21		
竪衿幅	15		
胸明	23		
小衿	道行衿	絲瓜衿	
小衿幅	1.8～2	後 3～4	
竪衿下	25～27	6～8	
ポケット口下	肩山より 36～38		
ポケット口明	15		

裁切寸法の定め方

袖丈　仕立上寸法に 3cm を加へる。

竪衿丈　仕立上身丈に前下を加へ,竪衿下を減じ上下縫代 5cm を加へる。

後身丈　總用布より袖及び竪衿を取りたる殘りを,丈二つに折り,更に前後の差を附けて四つに折る。

前身丈　後身丈に前後の差を加へる。

前後の差　(前下＋前下縫代)×2
8cm　3cm　1cm

小衿

道行角衿

丈　(採寸衿肩明＋竪衿下＋竪衿幅＋縫代)×2
2cm

幅　4衿幅＋2縫代(芯布を含む)
0.2cm

道行丸衿

丈　(採寸衿肩明＋竪衿下＋縫代)×2
1cm

幅　型紙に縫代を加へて裁つ。

絲瓜衿

丈　衿肩明より小衿先止までを度り,縫代を 2cm 加へて二倍する。

ポケット布

丈　ポケット口明に深さ 15cm と縫代を 3cm 加へる.

幅　竪衿幅に縫代を加へて二倍する.

中紐

幅　4cm 乃至 5cm

丈　27cm

道行角衿

裁方積方

所要仕立上寸法

袖丈	60cm	身丈	110cm
繰越	3cm	前下	3cm
竪衿下	25cm		

表

並幅　總用布　1100cm

附圖　第二百十七圖參照

上り身丈 + 前下 − 竪衿下 + 上下縫代 = 竪衿丈
110cm　3cm　25cm　5cm　93cm

{總用布 − (4袖丈 + 2竪衿丈 + 2前後の差)} ÷ 4 = 後身丈
1100cm　63cm　93cm　8cm　161.5cm

後身丈 + 前後の差 = 前身丈
161.5cm　8cm　169.5cm

(衿肩明 + 竪衿下 + 竪衿幅 + 縫代) × 2 = 小衿丈
9cm　25cm　15cm　2cm　102cm

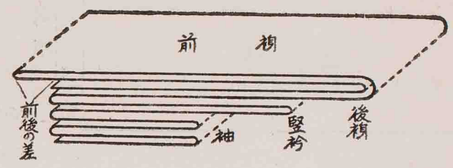
裏

附圖　第二百十八圖參照

2上り身丈 + 胴接代 − 表後身丈 = 胴裏丈
110cm　8cm　161.5cm　66.5cm

(4袖丈 + 胴裏丈) + ポケット布 = 裏總用布
63cm　66.5cm　33cm　551cm

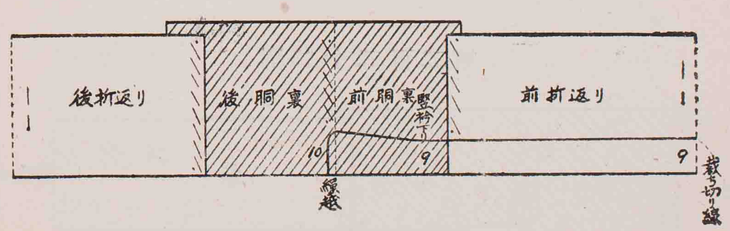
第二百十九圖　**折積方**



前褄の裁ち落し方

中表に二枚合せて羽織と同様に身丈を定め,胴裏を表褄の上に重ね,肩山及び胴接の所に躾を掛け,衿肩明を羽織の如く標し,竪衿下の間にて 1cm 曲げ,それより下を眞直にして表裏一緒に裁ち落す.

第二百二十圖

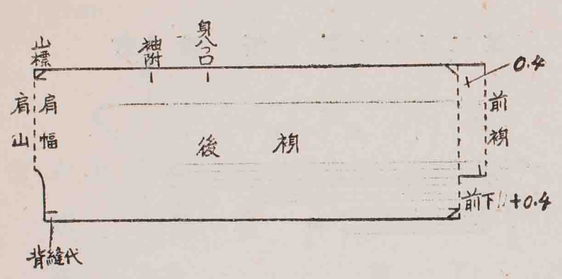


標　附　方

袖　袷羽織に同じ。

後褄　前褄の上に後褄を折り返す。

第二百二十一圖



1　袖附

2　身八つ口

3　前下

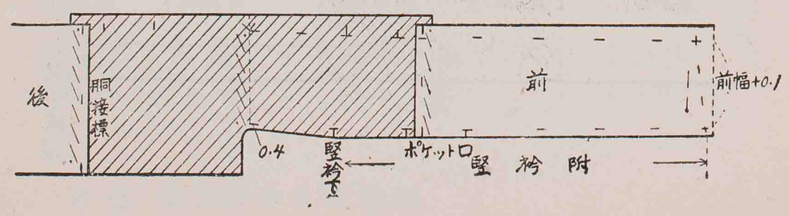
4　背縫代

5　肩幅（上り幅＋0.1cm）

6　山標

前　褄　後褄を左の方に開く。

第二百二十二圖



1　竪衿下

2　竪衿附

肩山にて衿附縫代を0.4cmとし,布目を通して竪衿附縫代の標を附ける。

3　抱幅及び前幅

4　胴接（前後）

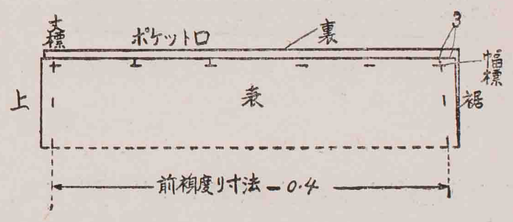
5　ポケット口

肩山より口下寸法を度り,口明標を下前竪衿附縫代に附ける。

6　竪衿附寸法を度る。

竪衿　左右竪衿を被布の如く折る。

第二百二十三圖



1　裾縫代

2　丈　標

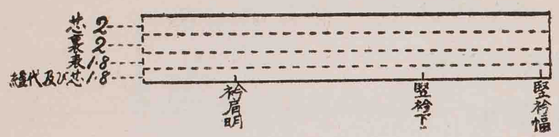
3　竪衿幅

4　ポケット口

小　衿

第二百二十四圖

（其　一）

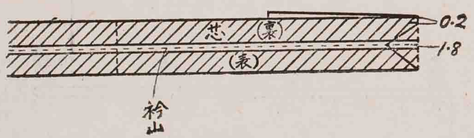


1　幅　（圖の如く折を附ける。）

2　衿附合標

襟に合せて衿肩明（採寸－0.1cm 乃至 0.2cm），竪衿下，竪衿幅の合標を圖の如く附ける。

（其　二）

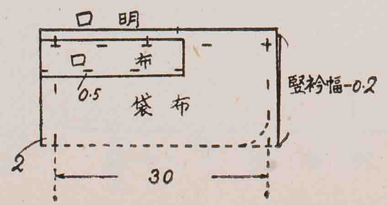


額縁標

竪衿下角を折り，圖の如く額縁の標を附ける。

ポ　ケ　ッ　ト

第二百二十五圖



1　丈　標

2　幅　標

3　口布標

厚地物の場合は口布の奥も裁目のまゝとす。

4　口　明

5　丸　味

仕　立　方（割仕立）

順　序

1	袖	8	竪衿附及び同裾縫
2	前下	9	ポケット附及び竪衿綴
3	胴接	10	袖附
4	脊縫	11	小衿附及び衿絎
5	後幅標及び脇縫	12	仕上
6	裾芯入れ及び縦綴	13	飾紐スナップ及び中紐附
7	身八つ口縫		

方　法

針目は極く細く要所は半返しになす。

1　袖

2　前下

3　胴接

4　脊縫

表の衿肩明より裏の衿肩明までを縫ひ，縫目を割る。

5　後幅標及び脇縫

上り寸法に0.1cm加へて後幅標をなし,脇を縫ひ,(裏幅は地質に應じて裾口より自然に縫込む)縫目を割る。

6　裾芯入れ及び縦綴

7　身八つ口縫

8　竪衿附及び同裾縫

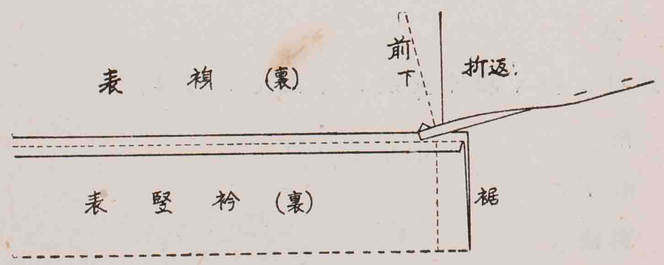
表竪衿裾の標と前褄裾山とを合せて待針を打ち,竪衿下より裾口から0.2cm先までを縫ひ,縫目を割る。

(但し下前はポケット口明を縫ひ殘す。)

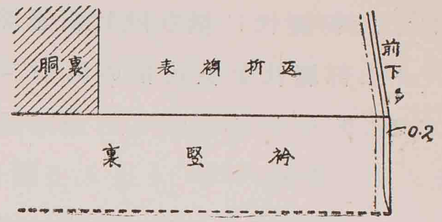
竪衿裾にて中表に幅を二つに折り,表は丈標より0.4cm先を裏は標通りに縫ひ,(先は自然に褄型になるやうに)被せを掛けて裏に折り,0.2cmの折返を作り,前下に合せて一束に躾を掛ける。

第二百二十六圖

(其一)



(其二)

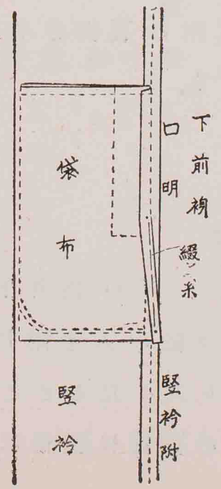


9　ポケット附及び竪衿綴

ポケット布に口布の奥を縫ひ附け,下部を千鳥掛けにする。

(地厚の場合は奥も千鳥掛けにする。)下前褄とポケットの口明標とを合せて縫ひ縫目を割り,次に竪衿は幅標より0.2cm淺い處と,ポケットは0.2cm深い處とを合せて縫ひ,ポケットの方に折り返し,表より躾を掛ける。

第二百二十七圖



ポケット布の上下を縫ひ合せ,口明下はポケットの縫代を自然に斜に折り,竪衿附縫代に綴ぢ附ける。(底は二重縫か卷縫になす。)

裏竪衿をポケットの上に平に置き,竪衿下より 5cm 位殘して裾口まで褄縫代に綴ぢ附け,尙裏竪衿の方より見て,ポケット上部縫代を竪衿幅の兩端 2cm 位殘して千鳥掛をする.

10　袖　附

袖附の四つ留を女袷羽織と同樣になし,表裏共に縫目を割る。

11　小衿附及び衿紮

(1)　小衿の額緣を標通りに返縫にして,縫目を割る.

(2)　小衿と表褄とを合せて釣合を取り,角の處は小衿と竪衿と褄とに淺く針を掛けて留め,それより 2cm 位づつ掛接になし,其の他は小針に縫ひ,縫目を割る.(此時衿肩明丸味の縫代のつれぬやうに良く伸し置く.)

(3)　裏小衿を小衿附縫代に綴ぢ附け,裏褄を小衿及び竪衿附縫代の上に紮け附ける.

12　仕　上

13　飾紐,スナップ及び中紐附

上の飾紐は被布と同樣に附ける。

下の飾紐はポケット口明止りより 15cm 內外下りたる位置にて,上前竪衿の端にシャカ結の方を附け,下前には前幅の約四分の一竪衿附より入りたるところに輪の方を附ける.(但し下前紐附の位置は,體格により斟酌する.)

下前小衿先には被布の如くシャカ結及びスナップを附ける。

尙スナップのみ附ける場合は,小衿先,ポケット口明上下,ポケット口明止りより 15cm 內外下りたる位置に上前竪衿裏側と下前表竪衿附とに附ける。

中紐を紮け,之を下前竪衿裏の飾紐の位置に附け,一方は脇縫目より前に向け,5cm 位高き所に附ける。

『備　考』

銘仙程度の物は,竪衿附,小衿附,袖附等を割り,其の他は片返になす.又地薄の裏地の場合は,全部片返にしてもよい.

道　行　丸　衿
裁　方　積　方

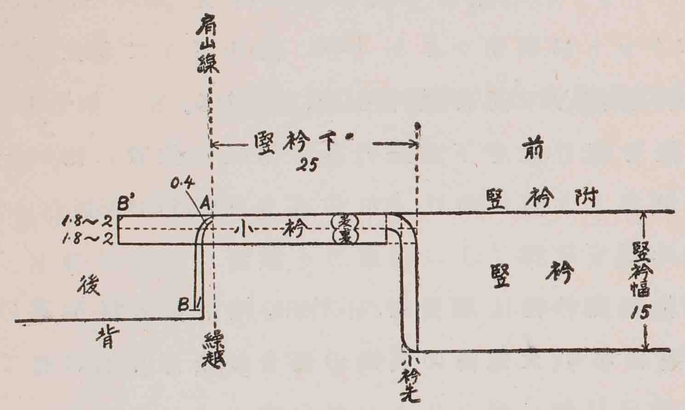
所要仕立上寸法

袖　丈	55cm	身　丈	108cm
前　下	2cm	繰　越	2cm
竪衿下	25cm		

小衿型紙の取方

第二百二十八圖

（其一）



順序

1　肩山線
2　脊線
3　裁切衿肩明
4　仕立上衿肩明
5　竪衿下
6　竪衿附
7　竪衿幅
8　竪衿上部
9　小衿丸味

竪衿下角に圖の如く小衿幅と同寸の正方形の點線を引き,内側及び外側の丸味を作る。

小衿先の丸味は,小衿幅の三分の一は平にする。

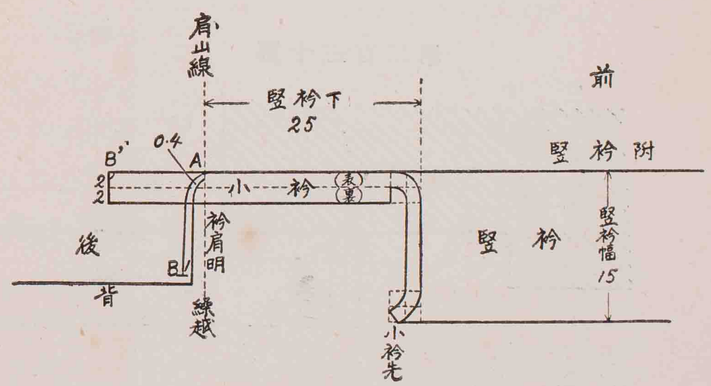
10　小衿丈

竪衿下を肩山より先に延長し,仕立上衿肩明(A. B.)を度り,その寸法より0.2cm減じてB'を取り衿丈を定める。

11　小衿幅

竪衿下の丸味より上は衿山を輪にして裏小衿幅を續けて取る。

（其二）



表

並幅　總用布　1095cm

附圖　第二百二十九圖參照